

こんばんは 〇〇です。

主人の介護の体験を話してほしいということで、うまく話せるかわかりませんが、少しでもお役にたてたらと思い、引き受けました。

主人の病気が分かったのは去年の6月でした。細胞を取っても癌細胞が見つからず、3回目の検査で取れて、入院し、抗がん剤治療が始まり、1回目をして1週間後に検査をしたら腎臓が悪くなり抗がん剤治療はできなくなり、その後、放射線治療、内服治療をしましたが、肺炎を起こしかけて、治療法がなく、緩和ケアしかないという事で主人は自宅で療養したいと希望でしたが、私は子供2人は県外、介護は一人で出来るだろうかと不安でした。市立病院の連携室の方が、「自宅に近い訪問看護センター『てあて』がいいと思います、又訪問診療の先生は〇〇先生ご夫婦が在宅ケアをととても熱心に取り組んでいらっしゃるの、ここにされたらどうですか」と言われ、本当に自分一人で介護できるかとても不安でしたけど、主人が11/21に退院して介護がスタートしました。

退院するに当たり、医師会病院の緩和ケア病棟の〇〇先生に面接をしてもらい、いつでも入院できますと言われ安心しました。そしたら最初はケアマネージャーの方も訪問看護も受入れなかった主人が、まず〇〇先生に心を開き、てあての方々にもだんだん頼って、薬も少なくなり、一時はとても元気になり、私もとても安心しました。何時でも具合が悪い時に来て下さり、夜中でも明け方でも10分も待たずに来てくださいました。12月中旬ごろ、1日2回体制にしましょうかと言われた時は、容体が悪いのかなと思っていましたが、だんだん弱っていき、冬休みになったら娘が孫を連れて帰ってきてくれ、1月6日までいてくれました。1月10日には息子の家族が6人帰ってきて、じいちゃんを励まし、帰っていきました。訪問入浴の第1回が12日の午前中に組まれていましたが、主人に急だから日は変えてもいいのだよと言うとそのままでも良いと言い、予定通りという事にしました。

11日にてあての方が明日(12日)日帰りでもいいので娘さんと孫さんを帰らした方が意識のある時がいいのではといわれたのでびっくりしましたが、娘に電話をしたら昼過ぎになるけど帰るという事でした。

12日は午前中にお風呂に入り、何か月分もの垢を落としてもらい、顔そりをしてもらい、さっぱりしてとても気持ちよさそうでした。午後、娘と孫が帰ってきてくれて嬉しそうでした。親子、孫、4人で主人と同じ部屋に休みました。明け方、具合が悪くなり、9時25分頃、てあての所長さんが孫を呼んで、「おじいちゃんは今、お空に行く準備をしているけど、耳は良く聞こえるから、〇〇君のピアノが大好きだったから、ピアノを弾いてあげて」と言われ、〇〇がピアノを弾き、2階から降りてきた娘が「お父さん、ありがとう」という言葉を聞いて、静かに穏やかに眠るように往生しました。私がびっくりしたのと同時に、とてもよかったと思ったことは、在宅ケアになってから薬が少なくなり、食事最後まで食べ、大好きな家で最期を迎え、また、孫に人の死を解りやすく教えて下さった所長さんの心遣いです。大好きな孫のピアノを聞きながら、大往生だったと思います。

心から訪問診療の先生、訪問看護の皆様へ感謝しています。

これから先、家で介護をする人が増えると思いますが、私みたいに不安があると思いますが、訪問診療の先生、看護師さんたちがサポートして下さいますので安心して介護が出来ると思います。またいろいろな面で国や県、市町村の助けが必要だと思います。家で看取ることが医療費の削減にもなっていくと思います。